

【2024 年度入学生】

常磐短期大学における卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）（以下「ディプロマ・ポリシー」といいます。）とは、常磐短期大学（以下「本学」といいます。）が教育活動の成果として学生に保証する最低限の能力（卒業時の到達目標）のことをいいます。

ディプロマ・ポリシーは、本学全体で掲げ、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、幼児教育保育学科において掲げています。

教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）（以下「カリキュラム・ポリシー」といいます。）とは、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）で入学した学生の学習と成長を、ディプロマ・ポリシーまで引き上げるための戦略のことをいいます。

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果の獲得を可能にするため、本学全体で掲げ、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、幼児教育保育学科において掲げています。

常磐短期大学

ディプロマ・ポリシー

本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。

1. 教養科目を含む授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら、社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた学生。（知識・技能、汎用的能力、態度・志向性）
2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。（汎用的能力、態度・志向性）
3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。（汎用的能力、態度・志向性）

カリキュラム・ポリシー

本学の建学の精神及び学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、学科授業科目による教育課程を編成し、実施します。

1. 短期大学士として求められる教養科目を含む学科授業科目。
2. 学理に基づく高度な知識と実践的スキルとを習得できる学習プロセス。
3. 豊かな人間性を涵養し、環境に順応できる人材を育成するための適切な教育方法。

幼児教育保育学科

【ディプロマ・ポリシー】

幼児教育保育学科では、人間性豊かで倫理観を備え、多様な課題に対し主体的・自律的に取り組むことができる実践力のある保育者の養成を目指します。そのために、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき編成した教育課程を通し、所定の単位を修得することで、次の知識・技能や資質能力を身につけた学生に「短期大学士（幼児教育保育学）」の学位を授与します。

1. 知識・技能

- ・幼児教育・保育に関する幅広い専門的知識および技能を有している。

2. 活用能力・自他の理解能力・コミュニケーション能力

- ・修得した知識および技能を活用し、実践につなげることができる。
- ・内省を通じた自己理解に基づき、一人一人の子どもや保護者に寄り添うことができる。
- ・自らの考えを言葉をはじめとする様々な表現方法を用いて伝えながら、他者とコミュニケーションする能力を身につけている。

3. 論理的思考力・課題解決力・創造力

- ・情報や知識を多面的な視点で論理的に分析・整理して捉え、課題解決に向け取り組むことができる。
- ・新しい発想を取り入れながら、柔軟に教育・保育を発展させる能力を身につけている。

4. 自律性・協働性

- ・自らの能力を高めるべく、不断に自己研鑽に励むことができる。
- ・多様な他者と、円滑に協調・協働しながら課題に取り組むことができる。

【カリキュラム・ポリシー】

幼児教育保育学科では、本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針（卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力（学修成果）を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

1. 教育課程の編成と特色等

(1) 教育内容（編成方針）

- ①幼稚園教諭二種免許状および保育士資格の取得要件に対応可能な教育課程を編成する。
- ②短期大学士として必要な知識・技能、汎用的な能力、態度・志向性を養うため、授業科目区分の科目群は、順序性・系統性を持たせて配置する。
- ③幼児教育・保育に関する課題に対応できる実践力、応用力を身につけ、生涯にわたり自らの資質を向上させる態度を養うための科目群を配置する。

(2) 教育方法（実施方針）

本学での学修を通して人間性豊かで実践力のある保育者を養成するため、段階的な教育方法を実施する。

【1年次】

- ①講義・演習科目では、乳幼児を取り巻く社会環境や、乳幼児期の発達段階や特性等、幼児教育・保育に不可欠な知識を学ぶ。
- ②実技科目では、理論・知識の習得をもとに、指導のベースとなる技能を身につける。

【2年次】

- ①1年次に学んだ内容からさらに踏み込んで、実践力、応用力を養う。
- ②実習科目では、乳幼児等と触れ合い、子どもの理解、具体的な援助法・指導法を実践的に修得する。

2. 授業科目の構成

乳幼児期の発達と教育についてよく理解をした上で、専門家としての質の高い保育者となっていくため

に、次の授業科目区分により、基礎・基本を踏まえ、実践的・多面的に教育課程を構成する。

(1)「基礎科目群」

「教養」と「基礎」に区分し、現代社会を多面的に把握し主体的に生きる知恵としての教養と、保育者に求められる基礎・基本とを、広い視点から学ぶ科目を構成する。

(2)「専門科目群」

「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」に区分し、乳幼児の発達の方向性を理解し、乳幼児期にふさわしい、一人一人に応じた適切な援助の方法を学ぶ科目を構成する。

(3)「展開科目群」

「教育・保育の本質」「保育内容」「子どもの理解と支援」「保育技能」「実習」に区分し、「専門科目群」の内容を応用・発展させ、実践的に学ぶ科目を構成する。

(4)「総合科目」

それまでに修得した理論と実践に基づき、より主体的で実践的・創造的な保育へ発展させる力を身につけるための科目を構成する。